

2023年8月15日（火）共同通信

## 生殖能力の温存を支援 がん治療で医療者用手引



共同通信

科学・医療

医療健康

医療新世紀

2023年08月15日 ● 共同通信

治療を始める前のがん患者が将来に備えて精子や卵子を保存する方法があることを説明し、適切に支援するための医療者向け手引を岡山大病院の中塚幹也リプロダクションセンター長（生殖医学）らがまとめ、ウェブサイトで公開した。



生殖能力の温存に関する知識を医療現場で共有して、支援から漏れる患者を減らすのが狙い。相談先などは岡山県の施設を例示したが、全国のどの医療機関でも活用できる内容になっている。

がん患者は抗がん剤や放射線治療によって精巣や卵巣の機能が失われ、不妊になるリスクがある。子どもを持つ可能性を残すため、治療前に精子や卵子、卵巣を保存する技術が開発されているが、医療スタッフや相談を受ける担当者が詳細を十分に知らず、治療前に説明ができていないケースもある。

手引が勧める温存までの流れによると、医療スタッフはパンフレットなどを使ってがん患者に説明した後、「希望あり」「保留」「希望なし」のそれぞれに応じて再度患者の意向を確認。必要に応じて精子や卵子を保存する施設を紹介する。温存する方法があることを治療前に聞いていなかった患者や家族は、各都道府県にある相談支援センタ

ーに紹介する。

保存技術の詳細や、乳がん、女性の血液のがん、男児の小児がんなどいくつかの個別のがんで温存の具体的な方法も解説した。

中塚さんは「各地の医療機関が『自分の施設ではどう対応できるか』を考えるきっかけになって、患者さんが一人も取り残されない体制ができたらい」と話した。

手引のダウンロードは「がんと生殖医療ネットワークOKAYAMA」のウェブサイトから。